

1. 学歴

1967年 3月 東京大学文学部第三類フランス語フランス文学専修課程卒業
1967年 4月 東京大学大学院人文科学研究科仏語仏文学専門課程修士課程入学
1970年 3月 同修了
1970年 4月 同博士課程進学
1972年 10月 グルノーブル第 大学留学(フランス政府給費留学生)(1973年9月まで)
1973年 10月 パリ第 大学ナンテール留学(フランス政府給費留学生)(1975年9月まで)
1975年 10月 東京大学大学院人文科学研究科仏語仏文学専門課程博士課程復学
1976年 3月 同満期退学

2. 職歴・研究歴

1976年 4月 愛知大学教養部専任講師
1979年 4月 獨協大学外国語学部専任講師
1983年 4月 同助教授
1985年 4月 同教授
1989年 4月 一橋大学経済学部教授
1995年 8月 パリ第 大学ナンテールにて研修(1997年9月まで)
1998年 4月 一橋大学大学院経済学研究科教授
2003年 4月 パリ第 大学ソルボンヌ・ヌーヴェルにて研修(2004年3月まで)

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

フランス語, フランス語中級, フランス研究入門, 異文化交流論, 経済文化 B

(b) 大学院

各国経済思潮 A, B

B. ゼミナール

学部前期, 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部の講義では, 受講者が少数で, しかもフランス語読解力が比較的高いことを生かして, フランス語テキストの輪読形式を採用し, 学生が, 社会思想の微妙な嬖と歴史の大きな流れとを照合できる能力を修得できるよう心掛けている。

学部のゼミ(共通ゼミ)においても, フランス語テキストの輪読形式を採用, その内容と, 学生の研究テーマとを関

連付け、それに沿って質問、議論をし、学生が新しい視点を発見できるように努めている。

大学院講義でもフランス語テキストの輪読を通じて、思想の厳密な理解能力を涵養させることを目指しているが、受講者の読解力が必ずしも十分ではないので、同時にその訓練も行っている。

大学院ゼミでは、学生の研究テーマ発展の助けとなるようなフランス語テキストを決め、年間を通じてこれを輪読し、適宜研究の進展状況を報告させる方式を採用している。

4. 主な研究テーマ

- (1) 19世紀フランス文学
- (2) 19世紀フランス社会思想
- (3) フランス近代美術
- (4) 都市論

出発点にあるのは、フランス19世紀の詩人ボードレールの研究であるが、この詩人が文芸・美術評論家でもあったことから、しだいに近代美術にも研究範囲が広がってきた。当然同時代の歴史にも関心を持たざるを得ないから、二月革命、第二共和政、第二帝政の政治・経済・思想状況にも目を向けている。ボードレールの詩集『悪の華』が風俗紊乱で告げられた経緯を詳述したのが『侵犯と手袋 『悪の華』 裁判』であり、フランス19世紀中葉の政治・経済・思想状況を、ヴァルター・ベンヤミンのアレゴリー分析の手法を参考に考察したのが、『芸術と策謀のパリ』である。最近では建築、建築史の専門家との共同研究プロジェクトに参加し、都市史、技術史に興味を抱き、フランス南西部において中世の計画都市バステードの調査を行っている。もちろん、最近のボードレール研究の成果も、近く刊行を予定している。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

『侵犯と手袋 『悪の華』 裁判』(単著) 朝日出版社, 1983年, 360頁。

『芸術と策謀のパリ』(単著) 講談社, 1990年, 254頁。

(b) 論文 (査読つき論文には*)

「『呪われた部分』の選択 ボードレールとバタイユの会う地点」『ユリイカ』, 1973年

5月臨時増刊号(阿部良雄編『ボードレールの世界』青土社, 1976年4月刊に再録)。

"L'image du Bourgeois chez Baudelaire -la préface du Salon de 1846", *Études de Langue et Littérature françaises*, No.30, 1977.

「科学主義」(阿部良雄と共著)『フランス文学講座 思想』大修館書店, 1977年。

「悪の華(初版)裁判の概略 付・検事論告ならびに判決」阿部良雄訳『ボードレール全集 悪の華』筑摩書房, 1983年。

「ベルギーのボードレール, ボードレールのベルギー」『フランス手帖』10号, 1989年。

「ボードレールをめぐるベンヤミンのいくつかのモチーフについて」『現代思想』1991年12月臨時増刊号。

「ポエム/ルンペン・プロレタリアート/遊歩者」『ユリイカ』1992年11月号。

「アウラ, あるいは華やかな裏地」『思想』1993年6月号。

「モデルニテの誕生」三島憲一・木下康光編『転換期の文学』ミネルヴァ書房, 1999年, 162-185頁。

「国立作業場運営に(垣間)見るフランス公共事業の特殊性」『近代エンジニアの誕生』東京大学大学院工学系研

究科建築学専攻伊藤研究室, 2000年11月, 142-154頁。

「フランス中世の計画都市「バステード」」『居住の近代性に関する学際的研究』東京大学大学院工学系研究科
建築学専攻伊藤研究室, 2006年4月, 239-262頁。

*「ボードレールと群衆 ベンヤミンに倣って」『ドイツ文学』第130号, 2006年10月, 30-46頁。

(c) 翻訳

『科学の名著 10 パストゥール』(長野敬・竹内信夫他と共訳) 朝日出版社, 1981年。

『経験の殺戮』J=F リオタール 朝日出版社, 1987年。

『パサージュ論』全5巻 ヴァルター・ベンヤミン(今村仁司・三島憲一他と共訳), 岩波書店, 1993年-1997年(「岩
波現代文庫」で再刊, 2003年)。

『マルクス・コレクション』(木前利秋・今村仁司と共訳), 筑摩書房, 2005年。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表

「フランス中世の計画都市「バステード」」日本建築学界 LCM 小委員会「居住の近代性」WG, 東京大学,
2003年2月28日。

(b) 国内研究プロジェクト

日本建築学界 LCM 小委員会「居住の近代性」WG, 2001年-2004年

フランス南西部のバステードの現地調査, 2003年-2005年

7. 学外活動

(d) その他

講演「ボエームとそのアトリエ タサエール〈アトリエの中〉をめぐって」京都市美術館, 2005年8月27日